

# あべともこニュース

生まれ出る生命と、今ある生命を守るために。

◆子どもの立場に立つ法案を！

第三者の精子・卵子の提供によって子どもを授かる「特定生殖補助医療」に関する法案が提出されています。9日、衆議院会館で集会が開かれ、「子どもが出自を知る権利が保障されない」「対象が法律婚の夫婦に限られ、女性カップルや単身女性が排除される」など問題点が出されました。

法案では、提供者の情報を100年保存するとしています。身長、血液型、年齢などの情報が子どもが18歳になった時知らされるだけ。個人の特定につながる情報は提供者の同意がなければ非開示。第三者からの精子提供で生まれた石塚幸子さんは「相手の同意を必要とする権利は権利とは言えない」、戸井田いちかさん（12歳）は「本当にひどい法律だと思う。法律を作った人は、一度子どもの立場に立って考えて見て欲しい」と発言。

阿部とも子（小児科医）は「一つの命を生み出すという責任が国会に問われている。生まれることが幸せと思える法律を目指そう」と呼びかけました。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区（藤沢市・寒川町）  
 当選9回、東京大学医学部卒業、  
 小児科医、あべともこ子ども  
 クリニック（湘南台）理事長  
 現在、環境委員会  
 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ  
 公式X (旧Twitter)  
 @abe\_tomoko

[https://twitter.com/abe\\_tomoko](https://twitter.com/abe_tomoko)



あべともこ事務所  
 公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索



◆伊方原発視察―避難計画等を考える

6月7日、超党派「原発ゼロ・再エネ100の会」事務局は、四国電力伊方原発を中心に現地視察へ。

現在、伊方原発は3つある原子炉のうち、3号機のみ稼働中。その他は廃止措置作業中ですが、30年以上前から原子力防災・避難経路などの観点から安全性が問われてきました。

先月31日に公表された南海トラフ地震による被害想定の結果も懸念されますが、原発近く8キロの距離に中央構造線が走っていることも以前から指摘され、いくら立地岩盤が強靱とされても、避難時に道が崩壊してしまうのではないかと。原発より西側の住民が乗船して、大分に安全に避難できるのかなど避難計画の実効性にも多くの問題がありました。

今回は市民の方との意見交換で環境影響（排水による海温上昇）についても議論されましたが、安全神話にとらわれることなく、原発ゼロを目指していききたいと思えます。

◆親書携えエジプト訪問

4日金曜日の深夜羽田を出て、7日深夜に羽田に戻るといふ強行軍で、エジプト政府関係者に謝意を伝えるに行ってきました。

阿部とも子が事務局長を務める超党派「人道外交議連」では、この間のイスラエルのガザへの無差別攻撃で五万人を越す死者や、病院なども破壊され医療が受けられない住民が多数いることに対して、日本で治療を受けて頂くメディカルエバキュレーションに取り組み、3月下旬に二人の患者さんをエジプトから日本に搬送しました。

エジプトはガザに隣接して、沢山の負傷者とその家族を受け入れ、その数はこの一年半で八千人近く、家族は一万五千人とのことで、WHOからも世界各国に患者の受け入れ要請が続いています。

停戦合意が破られ、イスラエルからの攻撃が再開し、国境が閉ざされる中、生命の為にできる努力をエジプトと共に続けていかねばと思います



アブデルアティー・エジプト外相と面会